

コード	502040201
記入日:	H22.6.10

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	西川義男
担当者	原 裕一

事務事業途中評価表

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	青少年キャンプの実施(南阿蘇村)事業
----------	--------------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	502	施策名称	生涯学習の充実	項コード	5
基本事業コード	50204	基本事業名称	生涯学習による人づくり	目コード	1
事務事業コード	5020402	事務事業名称	ジュニアリーダーの育成事業	細目コード	
関連計画			法令・条例規則等		

計画(PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標					
(対象1)	町内小学生5~6年生、中学生	(対象指標1)	1,197人(H21. 5. 1)				
(対象2)	参加予定者	(対象指標2)	38人				
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
*****	姉妹町村である熊本県南阿蘇村との交流及び参加児童の体験活動を促進するため南阿蘇村において合同育成キャンプを実施した。 事業実施件数 1件 開催日数 3日 募集回数 1回	① *****	*****	*****	事業実施件数1件÷計画した事業件数1件	*****	
		①	事業実施件数	1件	100%		平成21年度
		(達成率分析)	計画どおり実施した。				
		② *****	*****	*****	補助金交付件数1件÷補助金申請件数1件	*****	
		②	補助金交付件数	1件	100%		平成21年度
		(達成率分析)	計画どおり実施した。				
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
*****	姉妹町村である熊本県南阿蘇村と合同育成キャンプを実施することで、互いの子ども達の交流を果たし、また、リーダーの養成を行う。	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		① *****	*****	*****	参加者数38人÷参加予定者38人	*****	
		①	参加者数	38人	100%		平成21年度
		(達成率分析)	町内小・中学生に募集をかけ、予定どおり参加者を得ることができた。				
		② *****	*****	*****	補助額650千円÷補助予算額750千円	*****	
		②	補助交付額	645,000円	86%		平成21年度
		(達成率分析)	750千円の予算額に対し645千円の実績で交付した。				

実施(DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	①	件	2	2	1	1	1				
	②	件	2	2	1	1	1				
成果指標	①	人	155	155	117	38	38				
	②										
総事業費C(A+B)	千円	8,736	6,531	5,186	3,550	1,345					
直接事業費A	千円	3,136	3,031	2,386	750	645					
人件費B	千円	5,600	3,500	2,800	2,800	700					
内訳	従事職員数	人	0.8	0.5	0.4	0.4	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	8,736	6,531	5,186	3,550	1,345					

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	姉妹町村との交流及び青少年リーダーの育成のため是非必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	姉妹町村との交流やリーダーの育成のため実施する必要がある。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	姉妹町村間との交流と人材育成ができ適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	姉妹町村との交流を十分果たしており成果は上がっている。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	現状でも十分な役割を果たしている。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	姉妹町村との交流ができなくなる。
	類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	姉妹町村の児童との交流はこの事業のみであるため整理統合できない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	主体的な活動をさせるための最小限の必要経費と考えられる。
	人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	限られた人員の中での実施り、最小限の人員で効率を上げているのでこれ以上の削減はできない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	直接的な受益者負担は発生しない。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	姉妹町村との交流のなかで参加者の交流という面で十分に有効である。
		効率性	事業の実施にあたってはカリキュラム等適切なプログラムを実施する必要がある。
	2次評価	課題に向けた改善策	毎年交互の訪問ということで、新上五島町での開催時の募集方法を検討する。
		妥当性	1次評価のとおり
		有効性	多くの子供たちが参加・交流できる環境を整備し、お互いのふれあいを通して子供たちの健全な育成を図ること。
効率性	自己負担のあり方については検討を重ねながら、その経費の執行については、適正に行うこと。		

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。